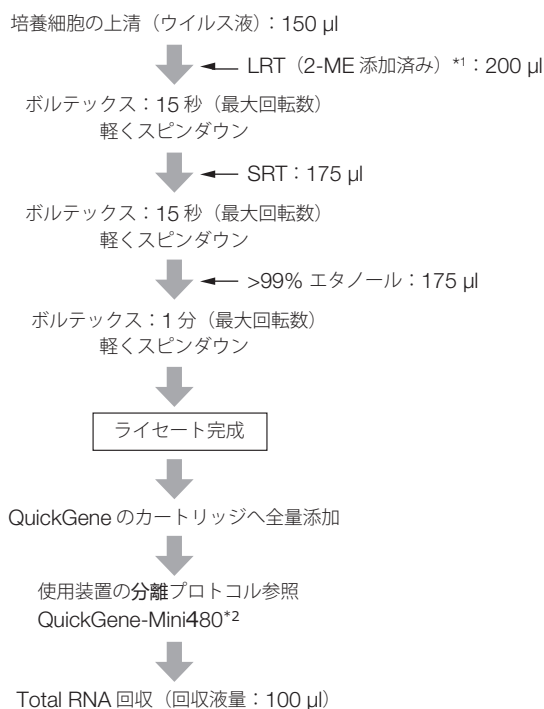


RH-7

RS (Respiratory Syncytial) ウイルス液からの total RNA分離

プロトコル



*1 1 ml の LRT 当たり 10 µl の 2-ME を加える。

*2 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。その他 QuickGene シリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

結果

■ 電気泳動図

データなし

■ Total RNA の収量

データなし

■ タンパク質の混入 : A260/280

データなし

■ カオトロピック塩の混入 : A260/230

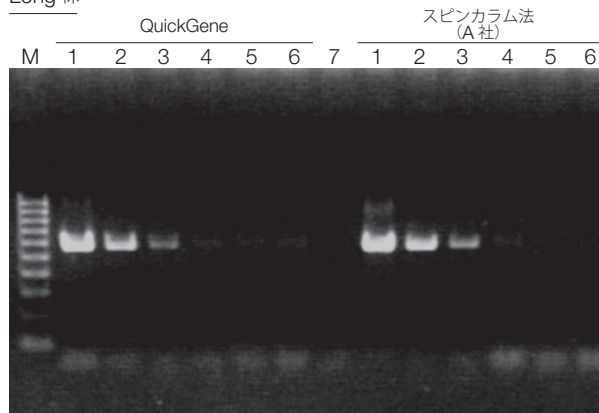
データなし

■ その他

● RT-PCR

QuickGene システムおよびスピнкаラム法 (A 社) を用いて RS ウイルス液から分離した total RNA で、RS ウイルスの G タンパク質遺伝子に特異的なプライマーを使用した RT-PCR を行った。

Long 株



電気泳動条件：2% アガロース / 1 × TAE

M：100 bp DNA Ladder

1：RC ウイルス、 10^5 pfu/ml

2：RC ウイルス、 10^4 pfu/ml

3：RC ウイルス、 10^3 pfu/ml

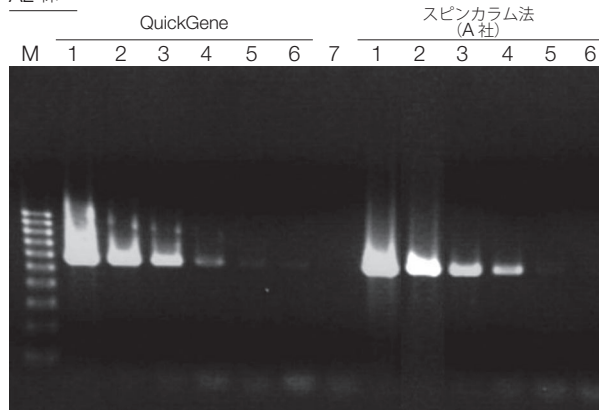
4：RC ウイルス、 10^2 pfu/ml

5：RC ウイルス、1 pfu/ml

6：RC ウイルス、1 pfu/ml

7：ネガティブコントロール

A2 株



いずれの total RNA からでも RS ウイルスの G タンパク質遺伝子の RT-PCR 産物を検出できた。

■ 共通プロトコルサンプル

麻疹ウイルス、インフルエンザウイルス